



令和6年度「空(ソラ)リン」 散布試験の結果報告①

前回お伝えしたドローン葉面散布材「空(ソラ)リン」記事の続きで、西南暖地の普通作水稻の結果になります。散布試験を実施して下さった方々に伺ったところ、共通していたのは「作業体系も変わらず、空(ソラ)リンを加えるだけだから楽」、「増収した分で空(ソラ)リンの資材コストを含めてプラスになった」との声でした。また、空(ソラ)リンは乳剤を除く農薬1剤との混用を推奨していますが、こっそり2剤混ぜて散布しても大丈夫だったとの事例も数件ありました(非推奨です)。

●千粒重が最大で1.5 g 増加!

出穂後の防除で空(ソラ)リン混用散布する場合、リン酸を実肥で効かせることになります。リン酸の効果でデンプン合成を促進して、登熟と粒肥大を進めます。リン酸の実肥は穂数や粒数の増加ではなく一粒一粒の充実・重量増加に効果があります。地域の防除体系や水稻の状態によって散布回数は異なりますが、最も収量が増えた事例は出穂後のカメムシ防除と共に1回散布し、慣行栽培の千粒重17.7 gのところ、19.2 gにまで増加しました。粒数が同じで慣行栽培の玄米反収7俵とすると、空(ソラ)リン散布は玄米で約36kgの増収、反収8俵とすると約41kgの増収になる計算です(粳重量換算では7俵で45kg、8俵で51.3kg)。この事例の他にも10数件の試験をヒノヒカリ、元気つくし、さびより、くまさんの輝き等で実施し、増えた事例の平均は千粒重0.53 g 増で、玄米で約12~15kgの増収となりました。



空(ソラ)リン試験区



対照区



株式会社 **ミズホ**

〒466-0807 名古屋市昭和区山花町64-1
TEL: 052-763-4171 FAX: 052-761-3771

Mail bio@mizuho.to



●資材紹介●



お知らせ：Mリンのミズホでは皆さまの栽培投稿を募集しています。QRから投稿下さい。



令和6年度「空(ソラ)リン」 散布試験の結果報告②



空(ソラ)リン NET 500g

●失敗事例には枯れ上がり傾向がある？

もちろん好事例だけではなく収量に差が無かった、減った事例もありました。これらの事例を分析して共通していた点は「散布時期の出穂前後から葉色が低く、枯れ上がりに近い状態で収穫を迎えた圃場」、つまり、地力が低い田んぼということです。地力が高い圃場でイネが出穂後もある程度（葉色4~5）の窒素を蓄えている状態で空（ソラ）リンを散布すると、千粒重1.5g増加といった好事例に繋がりました。空（ソラ）リンは土づくりをしている圃場で効果を発揮しやすいと言えます。西南暖地の水稻生産者はほとんどの圃場で裏作がセットになっており、残渣処理など土作り期間が取りづらい傾向にあります。しかし一ヶ月程度の残渣処理期間を設けるだけで、同じ栽培をしたとしても結末が大きく変わってきます。水稻、麦、大豆の作付けの合間で1回は残渣処理の土作り期間を設けるよう、考え方を考えるべき節目が来ているのではないのでしょうか。

【裏作ありの土作り3パターン（10aあたり）】

- ・水稻→土作り→麦：麦の播種20日以上前に
バクヤーゼK 3~4袋を残渣と共にすき込み
- ・大豆→土作り→麦：麦の播種30日以上前に
バクヤーゼK 4~5袋を残渣と共にすき込み
- ・麦→土作り→大豆：大豆の播種20日以上前に
バクヤーゼK 4~5袋を残渣と共にすき込み



バクヤーゼK NET 15kg

空(ソラ)リン 使い方

水稻

【散布時期】 イモチ防除時、およびカメムシ防除時
(出穂前および、出穂10日後以降)

タンクに本品1袋(500g)を入れ、10リットルになるように
水を加え、ドローン及びヘリコプターにて1haに散布します。